「木になるフェスティバル」を開催しました

企業支援部　普及連携グループ　渡辺 誠二

■はじめに

林産試験場では，例年，木材や科学技術，研究への興味・理解を深めてもらうため，試験場を公開し，木を使った様々な体験ができる「木になるフェスティバル」を開催しています。

第 35 回となる今年度は，子どもを対象に午前・午後各 75 名の事前申込制により，9 月 27 日（日）に開催しました。主催は林産試験場のほか，北海道立北の森づくり専門学院，（一社）北海道林産技術普及協会で，道総研上川農業試験場の協力により，7 つのブースで催事を行いました。来場の方々には，普段経験できない体験を楽しんでもらえたと思います。ここに，フェスティバルの様子を簡単にご紹介します。

①木材を腐らすヤツら

木材の腐朽や保存処理についての知識を深めてもらうため，腐朽した木材細胞や保存処理に係るインサイジングの穴などを，ハンディ顕微鏡を使って観察したり，マイクロスコープを使って大型モニターで観察したりしました。油性と水性の溶液が木材に浸み込む様子を観察し，溶液の違いにより浸み込み方が異なることに触れ，不思議な様子でした。




②木粉粘土を作って遊ぼう

シラカンバ，トドマツ，カラマツの木粉の中から好きな木粉を選び，でんぷん糊と混ぜて粘土にし，この粘土で好きな形にする体験をしました。

糊と混ぜ合わせた木粘土が，粘りついてなかなか作業が進まず苦労していた方も見られましたが，思い思いの形に粘土が仕上がると皆さん満足そうでした。




③「木のかけら」のヒミツを知ろう！　オリジナルストラップ作り

製材の板，合板，CLT，圧密材など多種類の木質材料から，使う素材を参加者に自由に選んでもらい，素材に開けられた穴に紐を通してストラップを作成しました。用意されていたペンで素材に好きな絵を描いて，自分だけのストラップができてうれしそうでした。




④box ティッシュケースを作ろう！

あらかじめ用意されていた部材を組み立てて，箱ティッシュペーパーを入れる木製ケースを作りました。部材には組手加工が施されており，凹凸（おうとつ）をつなぎ合わせ立体的なケースに仕上げていきます。若干の接着剤を使うものの，金づちを使い適正な力加減で叩くだけで角部がつながることに，精巧に加工された組手を体験してもらえたようです。




⑤「木」の校舎の北森カレッジで，「木」のコースターをつくろう！（北海道立北の森づくり専門学院）

樹皮付きの細い木の棒をノコギリで輪切りにして，それに絵を描き，オリジナルコースターをつくってもらいました。初めてノコギリを使う子供さんもいたようです。ノコギリの刃が引く時に切れるようになっていることに，始めはおぼつかなかったものの，切り終わるころには慣れた手つきになっていました。また，催事会場は北森カレッジの校舎の中でしたので，道産木材がたくさん使われた校舎も体験してもらえました。




⑥森を知り，木を知る Part 2
（(一社)北海道林産技術普及協会）

林産試験場内にある木と暮らしの情報館を会場に，森や樹木，木材に関するクイズに挑戦してもらいました。問題の答えは会場内のパネルに示されており，注意して見ることで答えがわかるようになっていました。正解数に応じて，木の葉っぱのしおりや，動物をかたどった小さな木製人形がもらえました。




⑦むしマスコットを作ろう（道総研上川農業試験場）

協力機関の道総研上川農業試験場で企画した催事です。水田や畑の虫について知識を深めてもらう目的で，フェルトやモールを使って，水田や畑の虫をイメージしたマスコット作りをしました。また，希望者には麦の穂のドライフラワーを持ち帰ってもらいました。もらった方は，普段はまず触ることがない麦の穂を手して，感触や穂の香りを楽しんでいました。




■おわりに

「木になるフェスティバル」は，毎年来場者に好評をいただいており，人気のあるイベントとなっています。林産試験場が提供できる催事の分量の関係で，ご来場の方には定員を設けて事前申込制をとっておりますが，今年も受付開始から１日足らずで定員が一杯になりました。定員の関係でご来場いただけなかった方を考えると，主催者として大変心苦しいところで，平にご容赦をお願いする次第です。また，ご参加の方々には，時間を割いてご来場いただいたことに，感謝申し上げます。

「木になるフェスティバル」では，子供たちは生き生きと楽しそうに工作などの各催事を体験していました。年に一度のイベントですが，森や樹木，木材を使った催事を通して，子供たちの可能性を引き出すきっかけになったのではと感じています。林産試験場では，これまでの経験を活かしながら，来年も当イベントを開催予定ですので，今年同様のご高配を頂けると幸いです。